

名古屋商工会議所金山南支部に加盟している中小企業でつくる「ものづくり研究会」は5日、有志15人が設計や金属加工などの技術を持ち寄り試作した新型エンジンを名古屋市内で公開した。写真。改良を重ね、3年以内に小型発電機や船舶向けの商品化を目指す。

ピストンを使う一般的なエンジンではなく、円

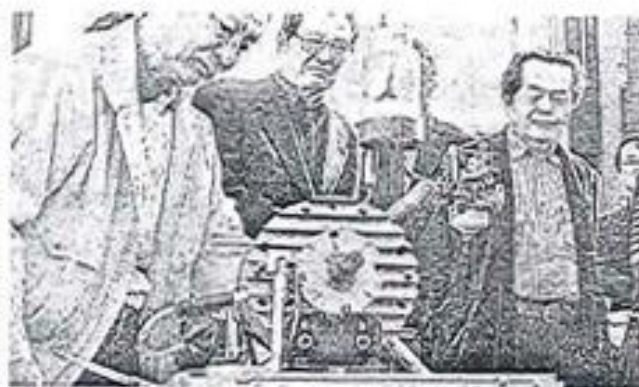
中小の技術結集 新型エンジン

名商支部の研究会

盤の周囲に設けたガスだまりで燃料を燃やす「ロータリーエンジン」とした。主要部品を25点と一般の自動車用エンジンに比べ6分の1以下に減らした単純な構造が特徴。小型なうえ約1時間で組み立てられるという。

内部圧力が不十分でセルモーターの補助が必要

小型発電機や船舶向け



だが、燃焼構造は確立できたという。密閉性を高

める改良を加え、来年にも自律運転を可能にする目標を掲げている。

食品加工機械の部品を製造している堀内政晴さん(73)が5年ほど前にエンジンの構造を考案した。2月にもものづくり研究会のロータリーエンジンチームが発足。名古屋工業大学の石野洋二郎教授らから技術指導を受け試作機を完成させた。

(15) 2013年(平成25年) 4月23日 火曜日

(第三種郵便物認可)

○:「海外にこの技術を出したくない。国内

で育ててくれるところがあれば譲りたい」と話すのは、

設備部品メーカー、アイデ

ア技研社長

の堀内政晴

さん。この

ほど、独自

機構のロータリーエンジンを開発した。特許も出願した。一般的なロータリーエンジンに比べ小型、軽量化したのが特徴。シンプルな構造のため、部品点数が少



ロビー

なく、低価格という。「低回転で大きな馬力があるため、船舶などに最適だ」

だ

○:創業は1975年。

元請け企業からの受注の波を緩和しようと、自社製品の開発にも積極的だ。「今回のロータリーエンジンの実用化は、当社だけでは難しい。大手メーカーなどと組む必要がある。これから展示会などに出展し、販路やニーズを探っていく」と意気込む。

技術 海外に出したくない